

2019 vol.56

UR

UR都市機構の情報誌 [ユーアールプレス]

P R E S S

特集

「まちの再生に向けて、お手伝いしています」

URが進める地方都市での取り組み



Special Interview

30歳のいましかできないことを
敏感に切り取って、挑戦していく

俳優

千葉雄大 さん



01 暮らしのカケラ① 「はじめてという魔法」 角田光代

03 Special Interview 未来を照らす⑩

千葉雄大さん 俳優

30歳のいましかできないことを 敏感に切り取って、挑戦していく



07 特集

まちの再生に向けて、お手伝いしています

URが進める 地方都市での取り組み

- 09 中心市街地ににぎわいを！ 地域に寄り添うまちづくり
13 日経 地方創生フォーラムより
17 沼津市で進むまちづくりを支援する基本協定を結びました(静岡県沼津市)
18 大火からの速やかな復興と、未来のまちづくりを支援(新潟県糸魚川市)

19 楽しい団地

梅ノ木団地(福岡県遠賀郡) 大学とコラボ、集会所を明るく変える！
花見川団地(千葉市花見川区) 団地に生まれた「LDK」が、内外から人を呼ぶ

23 URのまちづくり最前線⑩

ここからさらに広がりをも！ 札幌のまちのにぎわい拠点誕生
さっぽろ創世スクエア(札幌市中央区)

25 URのまち あのまち・このまち・歩いてみよう！ その⑦

浦安マリナイースト21周辺(千葉県)

27 復興の「今」を見に来て！⑩ 高台を結ぶ悲願の町道が完成 岩手県山田町

29 おいしい団地② 金杉台団地「cafe de STELLA」(千葉県)

大島四丁目団地「純喫茶ヤング」(東京都)
所沢パークタウン駅前通り「BAR MAGIC SMOKE」(埼玉県)

31 ベランダで楽しむ 四季の寄せ植え⑦ 黒田健太郎

バンジーとピオラで初心者向けの春の寄せ植え



32 防災グッズの新常識⑦ 高荷智也

防災をライフスタイルに 非常時こそ日常を確保

32 男子弁当のススメ！⑩ 相田幸二 鶏から揚げネギ塩ソース弁当

33 プレゼント付きクロスワードパズル

34 UR INFORMATION

季刊「UR PRESS」Vol.56
2019年2月28日発行

発行 独立行政法人都市再生機構
〒231-8315
神奈川県横浜市中区本町6-50-1 横浜アイランドタワー
Tel 045-650-0882 Fax 045-650-0889

制作 新潮社、編集室りっか
デザイン 太田デザイン事務所
印刷 大日本印刷
※本誌掲載の記事、写真、イラスト等の無断転載を禁じます。
※本文中の肩書きは取材時のものです。

表紙の世界

うちのまわりには商店街が
いくつかあります。
それぞれの店先の
音や匂いも楽しみながら、
ゆっくり少しずつ
買い物するのは
良いリフレッシュに
なります。

イラストレーション 小林マキ



だ ように、町もまた、はじめて旅したときのままに見えるだけなのだ。
れでもそうなのではない、というのと同じ。会ったときの顔
が印象に残っていない友人や知人はきちんと老けていくし、再
訪しても、何ひとつ思い出せず、本当にここに来たことがあつ
たづけ、と思う町もある。はじめての印象が強いのは、やっぱりその後親
しくなったり、好きになったりした、人や町だ。
いつかこの、はじめての魔法がとけて、先輩後輩がおじいさん、おばあ
さんに見える日がくるのだろうか？ 知っているはずの町が、まったく知
らない近未来みたいに見える日がくるのだろうか？

かくた・みつよ
作家。1967年、神奈川県生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。1990年「幸福な遊戯」で海燕新人文芸賞を受賞しデビュー。「対岸の彼女」(文藝春秋)での直木賞をはじめ著書・受賞多数。最新刊は『源氏物語 中』(訳・河出書房新社)。



角田光代

暮らしのカケラ

7

はじめてという魔法

学

生時代に属していたサークルの集まりがあった。何年かに一度
は集まっているので、すごく久しぶりというわけではないのだ
が、会うたびに、みんなが変わらなくて驚く。先輩も後輩もだ
れもが会ったときのままだに見える。しかし、「会ったとき」の年齢を思うと、
十八歳から二十二、三歳だ。その年齢に見えるはずがなく、男女ともにし
わも白髪も増えているのだが、どうしても「会ったとき」のままなのだ。
それと同じことが町にもある、とこのあいだ気づいた。イベントの仕事
があつてソウルを訪れたときだ。ソウルは、二十三年前、九十年代の半ば
と、二〇一五、六年に一度ずつ、計三回訪れていて、今回が四回目だった。
なぜか毎回冬。

今回も、かじかむように寒いソウルの町を歩きながら、自分が二十三年
前の面影を見ていることに気がついた。二年前や三年前のほうが記憶が鮮
明なのに、目の前の光景に重ねてしまうのは、はじめて訪れたソウルなの
だ。何屋さんなのかまったくわからないハンゲル語の看板や、洋服ばかり
売る市場の角、音が氾濫している繁華街、眼鏡屋さんの並ぶ地下街。九十
年代半ばのソウルは、今よりちょっと野暮つたくて今よりだいたい愛想がな
かった。芯から冷えるような寒さは同じだ。

本

当は、二十三年前にどこを歩いて、どこに泊まって、どこでこ
はんを食べたのか、まったく覚えていない。記憶は偽物かもしれ
ない。でも、その記憶が今の光景にきちんと重なる。
バンコクでもそうだし、ニューヨークでも、ヤンゴンでもそうだ。二十
代のとくに訪れた場所を、二〇年以上たつて再訪しても、はじめて旅した
ときの光景が重なる。どの町もかつてのようではなく、進化し、発展し、
垢抜け、きらびやかだが、その今の光景に、かつての、ちょっと暗かった
り古びていたり殺風景だったりした光景が、重なって見える。
私はそれを、たんなる懐かしさ、旅の感傷だと思っていた。その感傷の
ままに、二十数年前に歩いた路地や店やホテルを再訪することもよくある。
アスファルトに落ちる木々の陰、ホテルの扉、見上げた空の感じ、町は変
わっても、そうしたものは、変わらないなあと思う。
いや、実際は変わったのだ。老けた友人の顔が会ったときそのままである



photo・T.Tetsuya

ドラマや映画、舞台など、活躍の場を広げている俳優の千葉雄大さんが、昨年12月からUR賃貸住宅のCMに登場！海外で刺激を受けた2018年を振り返りながら、30歳になる年の挑戦を伺いました。

未来を
照らす

Special
Interview

19
Yuudai
Chiba



30歳のいましか できないことを 敏感に切り取って、 挑戦していく 千葉雄大

さん 俳優

UR賃貸住宅の 新キャラクターに就任

昨年の12月から、UR賃貸住宅のCMイメージキャラクターを務めさせていただいています。UR賃貸住宅のCMといえば、「URである」というフレーズが印象的で、自分も一視聴者

として拝見していたので、その世界に入れるのは、とてもうれしかったですね。

CMの撮影は、15秒、30秒のなかに詰め込むものがたくさんあるので、どう表現したらよりよく伝わるのか、現場で試行錯誤しました。「ハイッ！」というセリフを、何回もパターンを



変えて言ってみたり（笑）。伝えたい情報をマイルドに、若い方にも楽しく伝わるCMになったと思いますので、ぜひ多くの方に見ていただきたいです。

コミュニケーションの 大切さを海外で痛感

2018年はフランスやエジプト、アメリカ、中国など、海外にたくさん行かせていただいた1年でした。

印象的だった場所の一つが、ドラマ『プリティが多すぎる』のワールドプレミアで行ったフランスのカンヌです。英語でのスピーチや質疑応答もあってちょっと緊張しましたが、とてもアットホームな雰囲気、いい経験になりました。

今回参加したのは「MIPCOM」という世界最大級の国際映像コンテンツ見本市で、世界各国の方がさまざまな映像を売買する市場みたいなところですが、日本でも多くの海外作品がリメイクされていますが、逆もまたしかりで、本当にたくさん日本の作品が海外でリメイクされていることにも驚きました。特に少女マンガが原作のものは、人気があるようでした。

カンヌはとても小さなまちで、映画祭などの祭典が行われる設備が整っていて、歩いて回るの



ちは・ゆうだい
1989年宮城県多賀城市生まれ。ファッション誌の専属モデルを経て、2010年天装戦隊ゴセイジャーのゴセイレッド役で俳優デビュー。16年映画「殿、利息でござる」に出演し、第40回日本アカデミー賞新人俳優賞を受賞。18年はドラマ「高嶺の花」、フジテレビが多すぎる「スマホを落とすだけなのに」などに出演。12月には、UR賃貸住宅の新キャラクターに。1月からドラマ「家売るオンナの逆襲」に出演。

がとても楽しかったです。地元
の食材もおいしくて、海の幸や
白ワインを堪能してきました。
カンヌのあとは、ニースなど
南仏を少し観光してきました。
フランスの人はフランス語じゃ
なきゃ話してくれない、みたい
なイメージがありました。お
店などに行ってもフランス語で
挨拶をすれば、あとは英語でも、
すごく親切に聞いてくださいま
した。「サリュウ（こんにちは）」
とか「ボンジュール」「ボンソ
ワール」とか、あとは、「メル
シー」と言っていれば大丈夫で
したね（笑）。

海外に行って感じたのは、ち
ゃんと目を見て話すこと、挨拶
すること、ぶつかったときは「パ
ードウン（すみません）」と声
をかけることが大切だというこ
と。当たり前のことですが、海
外はそういうコミュニケーション
の基本が日本よりもきちっと
している気がしました。あ、あ
とは、なんととっても笑顔が大
切ですね（笑）。

11月には、学生時代からの夢
だったエジプトに行ってきました。
た。いくつかアラビア語も覚え
ました。
文化がまったく違うところが

全部の作品に影響を受けている
ので、一つに絞るのは難しいで
すね。あえていうなら、デビュ
ー作になった戦隊もの（『天装
戦隊ゴセイジャー』）かな。普
通の大学生から、特に演技の勉
強もせずにこの世界に入ったの
で、何もわからないところから
教えていただきました。いまま
も毎回壁にぶち当たりながら演じ
ています。

しては、役者としてのベースが
ありつつ、脚本を書いたり、監
督など、いろいろできたらしい
と思います。やるからには、
きつちりと勉強期間をもうけ
てからと思っています。

平成最後の年、僕は30歳にな
ります。平成元年生まれなので、
特に感慨深いです。年齢を重ね
てできることも増えるけど、で
きなくなることもあると思うの
で、いましかできないことは敏
感に切り取ってやっていきたい
です。

これから挑戦してみたいこと
は……、まだやったことのない、

ね。



面白かったですね。エジプトは
イスラム教なので、お祈りの時
間になると、アザンという礼
拝の呼びかけのような放送が流
れます。仕事は3時に終わって、
そのあとは水タバコとチャイで

ラジオのパーソナリティーかな。
リスナーさんからのメールにコ
メントしながら即興で話すのも
面白そうだな。あとは、ミュ
ージカル！ 歌は全然ダメなん
ですけど、できないことをでき
るようにするのは、すごくやり
がいがあると思うんです。

もし、自由な時間があつた
ら？ クイーンズイングリッシ
ュに憧れがあるので、イギリス
にホームステイしてみたいし、
アウトドアやキャンプにも興味
があります。それと、いまま
家族旅行をあまりしてこなかっ
たので、家族を旅行に連れてい
ってあげたいです

ね。

家族は宮城県多
賀城市に住んでい
ますが、城跡や史
跡が残っていて、
海の幸も野菜もお
いしいし、温泉も
あって、とてもい
いところですよ。宮
城県の観光大使
「みやぎ絆大使」
も務めていますし、
年に何回かは地元

おしゃべりするのが楽しなんだ
とか。僕もカフェに行つてチャ
イを頼んでみました。「砂糖を
入れますか」と聞かれたので、
普段は入れませんが、文化かな
と思つて「お願いします」と言
つたら、大きじに3杯！（笑）
そこにミントを入れて、超甘か
ったです（笑）。

海外に行く機会が多かったこ
ともあつて、英会話を勉強した
いと真剣に考えています。海外
で会った人ともっと仲良くなり
たいのに、言葉ができなくて悔
しい思いをしたからです。学生
時代から英語は大好きでしたが、
英会話に関してはまだまだで。
ふだんから英語を話せる友達
や、英語を勉強中の人を見つけ
て、待ち時間やごはんを食べて
いるときに「ここから英語でし
ゃべろう」と言つて、積極的に
英語を使うように心がけていま
す。

**平成元年生まれとして
公私とも充実した1年に**

今年でデビュー10年を迎えま
す。「転機になった作品は？」
と聞かれることも多いですが、

のイベントにも参加します。い
まも帰ると、「大きくなったね」
つて、言われたり（笑）。親戚
がいつばいいる感覚。落ち着く
場所です。

役者としては、求められるも
のを演じるだけでなく、それに
自分の色をつけ、見た人の心や
印象に残るようにできたらいい
ですね。どんな作品もやりがい
があるとしますが、「この役
が自分にくるのか」というよう
な意外な役や、社会に何か訴え
る役、見た人に考える機会を与
えられるような前衛的な役もや
つてみたいです。

この仕事をしてしていると、一日
があつという間だし、一年もあ
つという間だと感じます。今年
は今まで以上に一つひとつの仕
事を大切にしたいし、自分の時
間も充実させたい。一歩踏み出
す気持ちで、いろいろなことに
チャレンジしたいですね。



WEB UR PRESS

「UR PRESS」オンライン
版で、パソコンやスマ
ートフォンから千葉雄大さ
んのインタビュー動画が
ご覧いただけます。
(2019年4月末まで)



WEB UR PRESS



まちの

再生に向けて

お手伝いしています

URが進める 地方都市での取り組み

特集

人口が減り、少子高齢化が進む日本。一つひとつの「まち」が抱える悩みや課題は、じつに多岐にわたります。半世紀以上にわたるまちづくりの実績とノウハウを持つURでは、まちづくりの構想から施策の実施まで、「まちづくりのパートナー」として地方都市再生に取り組んでいます。歴史・文化・産業などの地域資源や、交通の要衝のような地域特性を活かした取り組みは、まさにオーダーメイド。地方創生・地方再生が日本全体の大きなテーマとなった今、URは培ってきた広い視野と、公共性・中立性を活かし、地域の課題に真摯に向き合いながら、柔軟な発想で全体像を見据えたまちづくりを共に考えていきます。さっそくその現場をご紹介します。

上空から眺める新潟県長岡市。中心市街地のにぎわいを取り戻す取り組みを、次のページで紹介しています。写真提供 / 長岡市

中心市街地ににぎわいを！ 地域に寄り添うまちづくり

新潟県のほぼ中央に位置し、信濃川に沿って市街地が広がる長岡市。その中心市街地である長岡駅前のにぎわいを取り戻そうと、100年後を見据えたまちづくりが進められている。URは市に職員を派遣するとともに現地事務所を構え、まちづくりを全面的にサポートしている。

「00年先の長岡のために」そんな未来を見据えたスローガンのもと、まちづくりに取り組む長岡市。長岡駅前の中心市街地の再生に長岡市が取り組み始めたのは、今から30年近く前のこと。その後、信濃川の対岸に大型商業施設やシネマコンプレックスができて人の流れが変わったり、中心市街地にあった老舗の大和百貨店が閉店したりなど環境の変化を経ながらも、長岡の人たちはまちのにぎわい再生を考え続けてきた。その再生まちづくりの一環として、URが関わる前から進められてきた市役所やアリーナが入る交流施設「アオーレ長岡」や、子育て支援の拠点が入る「フェニックス」の再生まちづくりの一環として、URは2012（平成24）年から長岡市に職員を派遣。行政と一体となって、長岡のまちづくりをトータルかつきめ細かくサポートし、UR職員を派遣しきめ細かなニーズに対応

している。現在出向している成田昌弘は、赴任当初は、それまで手がけてきた都心の再開発との違いに戸惑う面もあったと振り返るが、今では長岡市中心市街地整備室長として、地域の事情を踏まえながらまちづくりに関わっている。

11の市町村が合併した長岡市の面積は東京23区の約1・4倍と広大。市内に分散している公的機能を中心市街地に集める『まちなか型公共サービス』を、まちの活性化の柱として展開している。「ただし市役所を含め公共施設を高層にして1カ所に集中させるようなことはせず、近くに分散させて人の回遊性を高める工夫をしています。」

また、すべてを建て直すのではなく、まちのランドマークでもある北越銀行の建物など使えるものは残し、必要なものを必要なだけつくっていくのも長岡のまちづくりの特徴です」

と成田室長は説明する。高層にして床面積を増やせば高い家賃収入が得られる都心の再開発とは状況が異なり、予算も限られたなかこの地に即したよりよいあり方を共に考えながら進めているのだ。

誇りがもてるまち 帰ってきたくなるまち

「長岡には『米百俵』や『互尊思想』（コラム参照）に代表されるような人づくりの伝統があり、真



初代長岡藩主、牧野忠成が城主になった元和4年（1618）年から、昨年400年を迎えた長岡のまち。右写真は手前に位置するJR長岡駅側から駅の西側の大手通りを望む風景。右手奥が「大手通坂之上町地区」。



建設予定の米百俵棟の3階「人づくり・学び・交流エリア」のイメージ図。施設内の各機能が、本棚でつながる計画だ。

人づくりの大切さを示す「米百俵」

長岡藩の大参事・小林虎三郎は、戊辰戦争で敗北後、窮乏に陥った長岡藩に寄贈された百俵の米を、食すことなく資金に替えて、身分に関係なく学べる国漢学校の設定資金に充てた。

【図説】

「人づくり」の大切さを説いた虎三郎の「米百俵」の精神は、小泉純一郎元首相の所信表明演説で引用され注目を集めた。今回の事業エリアである大和百貨店があった場所は、国漢学校の跡地であり、米百俵の精神が息づく大切な場所である。



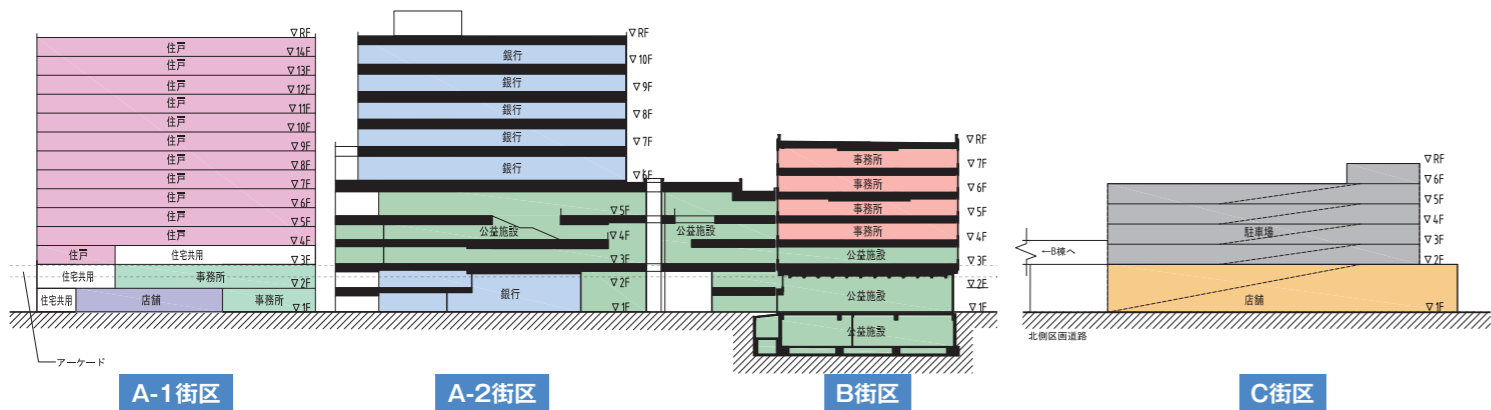
2015年から長岡市に出向している成田室長。「長岡は昭和20年に空襲を受けていて、市街地の建物の多くは戦後の同時期に建てられたもので老朽化が進んでいます。8月の長岡まつり大花火大会は、犠牲者への慰霊とまちの再建祈願で始まったのです」



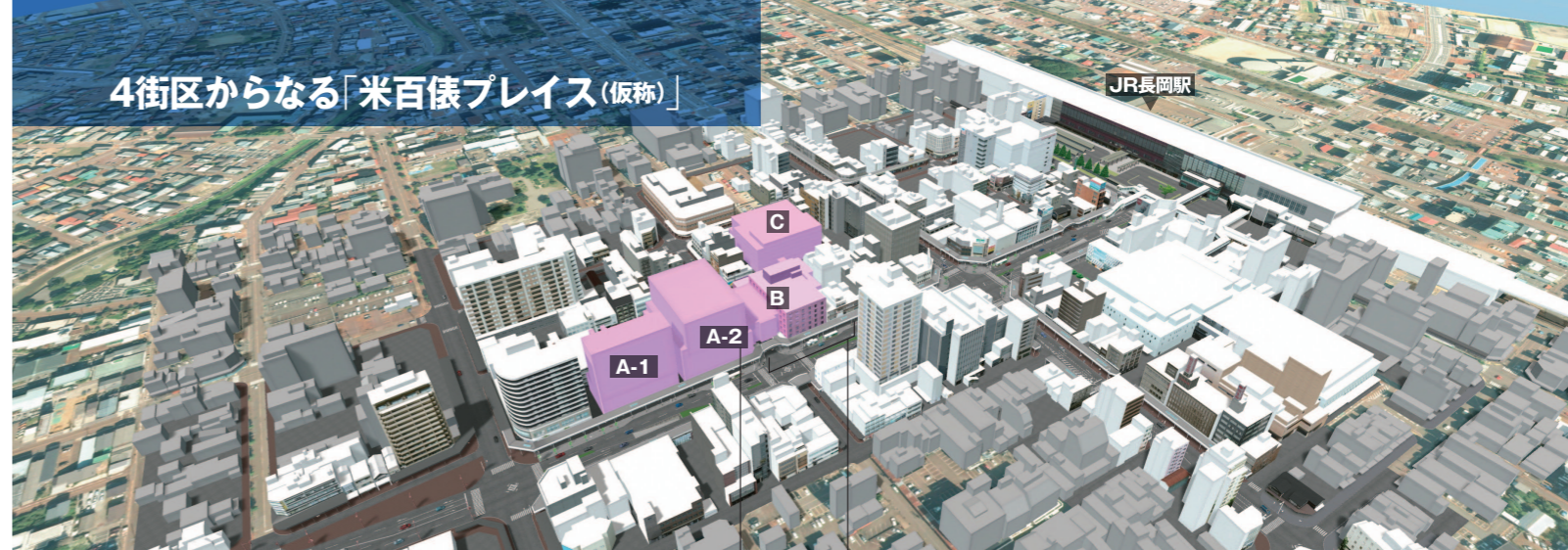
A-2街区の角にある「米百俵之碑」。



再生まちづくりの一環でつくられた「アオーレ長岡」。設計は隈研吾氏。



施設の計画図。米百俵棟はA-2街区(西館)とB街区(東館)をパッサージュ棟で連結し、低層階は「入づくり・学び・交流エリア」となる予定。



左手が大和百貨店の跡地「A-2街区」。URが土地を一括購入して分割売却されるのを防いだ。右手が取り壊さずに活用する白い大理石で覆われた北越銀行の建物(B街区)。

北越銀行(B街区)の並び、手前には「ながおか市民センター」があり、国際交流センターやハローワークプラザなどが入居している。

互いを認め合い 人間形成を促す「互尊思想」

明治維新後、身分の格差が広がるなか、人間はそれぞれ同等の価値があり、互いの個性を認め合うことが大切であると「互尊思想」を唱えた長岡商人の野本恭八郎(互尊翁)。文化都市の形成が市民生活の向上に、図書館が市民の人間形成につながるの思いで、恭八郎は私財を投じて互尊文庫を寄附した。

今回の事業では「まちなか図書館」の計画があり、互尊文庫をこちらに移転予定。互尊思想を受け継ぐ図書館は、これからも人づくりの一翼を担う。



1918(大正7)年に開館した大正記念長岡市立互尊文庫。

【図説】



現在の市道401号線とB街区を一体化し、自動車の通行機能を確保しながら、歩車共存のコミュニティー空間にすることを検討している(画像はイメージ)。

「地区内で商売をしているのであれば、今後も商売を継続するのか、移転するしたら店舗の広さはどうするのか、自分でやるのか、オーナーとなって貸すのか……など大きな決断を迫られます。丁寧に寄り添わなければなりません」

再開発事業がその方の人生をリスタートする場になっているのだ。URのメンバーは市民の意見を

のが我々のミッションであり、許可申請など重要な業務が続くこの1〜2年が肝になる」と考えている。事業が滞りなく進むように力を尽くす一方で、権利者一人ひとりの意向を確かめながら、生活再建策や補償などについて説明・相談にのるなど、細かなフォロー、ソフト面での支援も丁寧に行っている。



人の回遊を促す にぎわい空間を創出

URが施行する今回の「大手通坂之上町地区」は、上越新幹線と信越本線が行き交うJR長岡駅の

剣にまちのことを考えている人がたくさんいます。今回計画されている公共施設ゾーンもベースは図書館で、学校と異なる体験ができる『子どもラボ』や『若者ラボ』が計画されているのも特徴的です」と成田室長。

また機械産業が盛んな土地柄を生かして産業界と大学や高専が連携し、若者が希望をもって働ける場を創出する『長岡版イノベーション』の構築も重要な計画のひとつ。すでに「NADC BASE」(ナデックベース)で試験的にスタートしていて、その検証結果を新たな場に反映させる予定だ。

「地元を離れたとしても出身地に誇りがもてること。そして鮭が遡上するように、いつか帰ってきたくなるまちづくりが理想です」と語る成田室長。若い人たちにそのように感じてもらえる環境や施設をつくらうと、地元の大人たちは頑張っていると話す。

人生をリスタートする 人たちに寄り添う

事業が本格的に動き出すにあたり、2018年4月、URは現地に長岡都市再生事務所を開設。UR職員等7名が再開発事業の推進に当たっている。その一人、URの長谷川諒は「計画を事業化する

西側のエリア。国道351号と市道401号線に面して、「米百俵プレイス(仮称)」を形成し、中心市街地の回遊性を高めることが目的だ。

具体的には、商店などが集まる「A-1街区」をにぎわいの創出と、まちなか居住を促進するための商業施設と集合住宅に。大和百貨店跡地等の「A-2街区」および隣接する「B街区」は北越銀行や商工会議所のほか、「人づくり・学び・交流エリア」として公共公益施設や事務所などの機能を持つ米百俵棟を整備。カフェ併設の「まちなか図書館」や「子どもラボ」なども整備する予定だ。

そして「C街区」は、まちなか来訪者の利便性を高めるため、商業施設などを備えた複合型立体駐車場にする計画だ。



まちを歩いて好きな場所を探したり、地元の人と食事するなど、積極的に長岡の土地になじむことを心がけているというURの長谷川。

聞くワークショップにもオブザーバーとして参加しているが、米百俵プレイス(仮称)へのまちの人たちの期待をひしひしと感じるといふ。

「つくって終わりではなく、維持管理も含め、自走していく仕組み・継続していく体制づくりを考えながら業務にあたっています」と語る長谷川。数年越しで地に足をつけて取り組む仕事だと現地にきて実感し、昨年末には家族を長岡へ呼び寄せた。これまで以上に長岡に根を張った暮らしがスタートし、今後は子育て世代の目線も持つてまちづくりをサポートしていくつもりだ。

歴史と文化、そして人づくりを大切にしている長岡の人たちの熱い思い、堅実な人柄に触れ、心に刻むURのメンバー。まちづくりのパートナーとして、新たなにぎわい創生の拠点づくりを全力でバックアップする日々が続く。

「Society5.0」で 解決する まちづくりと地方創生

日経 地方創生フォーラムより

「官民連携と地域連携で実現する地方創生」をテーマに、昨年12月14日と今年の1月22日に東京の日経ホールで地方創生フォーラムが開かれました。URも協賛した、その内容の一部をご紹介します。

経済発展と社会的課題の 解決を両立する

新しい社会「Society5.0」

増田寛也氏 東京大学公共政策大学院客員教授

インターネットなど仮想の「サイバー空間」と、私たちが暮らす現実の「フィジカル空間」を高度に融合させ、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会が「Society（ソサエティー）5.0」です。第5期科学技術基本計画で、わが国が目指すべき未来社会の姿として初めて提唱されました。

これまで人類は狩猟社会(Society1.0)→農耕社会(2.0)→工業社会(3.0)→情報社会(4.0)と進み、その先にあるのがSociety5.0です。5.0はAIやIoT (Internet of Things)、ロボットといった先端技術によって、さまざまな地域のハンディや課題を解決するだけでなく、多様な創造力を用いて価値創造につなげていく「超スマート社会」ということができます。

Society5.0では、次のような社会が実現すると考えられています。

- 地域、年齢、性別や言語による格差がなくなり、多様で潜在的なニーズにきめ細かく対応したモノやサービスの提供が可能になる。
- 経済的発展と社会的課題の解決を両立した社会になる。
- 快適で活力に満ちた質の高い生活が送れるようになり、人間中心の社会が実現する。

Society5.0は社会にさまざまな変化をもたらすデジタルテクノロジーがもたらす社会のさまざまな変化とその可能性。それをどうやってハンディの解決につなげ、新しい価値創造につなげていくか、そこが問われています。

重要なのは他者を排除せず、多様な文化や価値観を受け入れる寛容性の高さです。地方

においても寛容性の高さを競いあい、多様な人材をどれだけ備えることができるか。

Society5.0が地方創生に大きな成果をもたらす鍵は、そこにあると思います。

パネルディスカッション

- 久間和生氏 農業・食品産業技術総合研究機構構理事長
 柏木孝夫氏 東京工業大学特命教授・名誉教授
 大南信也氏 認定NPO法人グリーンバレー理事
 岩坪慶哲氏 富士通デジタルフロント事業本部
 デジタルビジネス事業部
 ソーシャルエコノミー推進室
 コーディネーター 坂井文氏 東京都市大学教授

久間和生氏

農業・食品分野と Society5.0

農業分野では、①2025年までにほぼすべての担い手がデータを活用、②スマート農業技術の1000億円以上の市場獲得、③19年までに農林水産物・食品の輸出額を1兆円に増大させ、その実績



状を受け入れ、「創造的過疎」を目指して地域活性化に取り組んできました。

スタートは1999年のアートから。芸術家を招へいし、2005年には光ファイバー網を整備し、ウェブサイトを「イン神山」を構築。次は「ワークインレジデンス」。仕事を持っている人に移住してもらってまちをデザインしようと考え、まちの将来に必要と考えられる働き手、起業家を逆指名しました。その結果、商店街が再生。新たな人の流れと、地域内の小さな経済循環が生まれました。

10年からはサテライトオフィスを始め、13年には coworkingスペースをつくり、現在は15社、26名がサテライトオフィスとして利用しています。ここにはクリエイティブな人材が集まり、クラフトビルづくりや、間伐材を使った商品開発など、いくつものプロジ

をもとに新たに30年に5兆円の実現を目指すという目標を掲げています。

目標達成のためにSociety5.0の農業・食品版を実現します。それにはスマートフードチェーンの実現が必要。つまり、育種、生産、加工・流通、消費にわたるフードチェーンすべてのプロセスを「AI+データ連携基盤」でスマート化し、生産性向上、無駄の排除、コスト削減、高付加価値化を実現します。

人工知能と農業データの連携基盤を整備、各プロセスのデータが自動的に収集され、人工知能で解析し、各プロセスにフィードバックする。それが農業・食品分野におけるSociety5.0です。

柏木孝夫氏

再生エネルギーを生かす Society5.0

昨年9月の北海道胆振東部地震で起こった全道ブラックアウト。あとき稚内では風力発電が80基以上稼働していましたが、稚内も停電になりました。これは風力を主力電源化できていなかったからです。

エクトが生まれています。

人が移住する、還る、留まることを選択する背景には、地域に可能性が感じられる状況が不可欠です。働き方や働く場所の自由度を高め、地域に「高度な職」を呼び込むとともに、新たなサービスを生み出す。そして観光などの連携によって域外から適度な外貨を取り込み、地域内経済の循環による自律的發展を図る。これが、私たちが進める「選択的過疎」の取り組みです。

岩坪慶哲氏

Society5.0で解決する まちづくりと地方創生

シェアリングエコノミーを通じた社会課題解決のビジネス化に取り組んでいます。シェアリングエコノミーとは個人等が持つ利用可能な資産（スキルや空いている時間などの無形のものも含む）を、インターネット上のマッチングプラットフォームを介して、他の個人も利用可能にする経済活性化活動です。

北海道天塩町の事例「相乗りプロジェクト」を紹介します。天塩町は病院などがある稚内市まで70

しかし、このSociety5.0のサイバーレイヤーが入れば、不安定で変動性のある電源もつなげられるようになります。大規模発電に風力、太陽光など分散型の電源が入ってきて、それがサイバーレイヤーとともに一体になります。

風力や太陽光に内蔵されているコンピューターをはじめ、複数のコンピューターがすべての情報を共有し、コンピューター間で監視してデータを検証する。それをチェーン状につないで制御していくかたちです。

こうすれば変動性のある再生可能エネルギーを主力電源化できます。これからのエネルギーシステムはどんどんふくらんでいくので、Society5.0で定義されたサイバーレイヤーとフィジカルレイヤーの一体感が実証されてはじめて、日本は脱炭素社会の先進国になると思います。

大南信也氏

徳島県神山町における 「創造的過疎」の取り組み

1955年に2万1000人いた人口が、2015年には5300人に減少した神山町。過疎の現

キ口も離れており、直行する公共交通機関がなく、交通弱者は生活が困難です。そこで、稚内市に移動する車の空席をICTによって「見える化」し相乗りする、「相乗り交通」を始めました。

ここでポイントになるのは、これまで見えなかった「マイカーの空席」がデータとして可視化されたこと。デジタル化されることによって、現実空間とサイバー空間が結び付き、生活の利便性向上につながったのです。

Society5.0の実現に必要なIoT、ビッグデータ、AI、ロボットといった技術は手段に過ぎません。それよりも現実世界で起きているどのような社会課題を解決するかというテーマ設定が重要です。これらの手段を活用して社会課題の解決を図るには、サイバー空間で処理するために、いかにしてデータにするかが課題。そのときにデジタル化、オープン化、ネットワーキ化が鍵となるでしょう。シェアリングエコノミーやオープンデータ、IoTは、超少子高齢社会のわが国が直面するさまざまな社会課題の、解決の糸口になると考えています。

地方都市再生の実現に向けて

パネルディスカッション

後藤健市氏

スノーピーク地方創生コンサルティング会長兼社長

松本大地氏

商い創造研究所／賑わい創研代表取締役

コーディネーター 坂井文氏 東京都市大学教授

地域の宝を見つけ 野遊びで楽しむ



後藤 地域の「もったいない資源」を見つけ、それを使った挑戦を実行し続ける。小さな挑戦ができる仲間

と出会い、連携してともに行動する。「楽しい」と「おいしい」で場所と人をつなぎ、地域に新たな価値を生み出すきっかけをつくる。私の活動をひと言でいえば、こういうことになりました。

テーマは「野遊び」。野遊びはアウトドアで、自然と人、人と人をつなぎ、さまざまな分野と連携しながら活動しています。

ローカルファーストとは、地域を第一に考えようということ、ローカルファーストな商品やサービス、環境づくりがあります。ポートランドでは、人々はチェーン店よりローカルファーストの地縁店で買い物をします。

CSVはCreating Shared Valueで、企業が企業の利益と社会的課題の解決を両立させることで社会貢献を目指す経営理念です。例えばポートランドでは、ナイキがシェアサイクル用の自転車ステーションを市内に1000台分設置しています。ローカルファーストとCSVによって、メリットのある企業や団体がリーダーになり、住民と行政を動かす時代になっていくと思います。

地域のよいものを最大限 活用するカルチャー

坂井 これからの地方都市再生の課題はどこにあるでしょう。

後藤 真面目すぎないこと。皆さん真面目すぎて、新しいチャレンジをしない、楽しくないまちづくりが多いように思います。大事なものは、自分が楽しく、他から見てもかっこいいことです。

日本はいま、「物」から「コト」の経済へ移行しているところで。「遊び」とは楽しいことをすることで、レジャーとは違います。「遊び」は地域活性化の軸になると思います。また、景観を楽しむには、しつらえが大切だと考えています。私は「S級」にこだわります。地域の中にすごい鍵があるんです。資源の宝庫です。それらをつまみ食いして、日本の地方をグローバルトップリゾートにしていきたいのです。

ポートランドに学ぶ エコ・コンパクトシティ



松本 生活を豊かにするライフスタイルをどうつくっていくかをテーマに活動しています。

アメリカ西海岸にあるオレゴン州ポートランドの研究を長く続けています。1950年代から60年代にかけて、ポートランドは車社会の形成でダウンタウンは荒廃。

ぼくは「1Dまちづくり」と言っています。よくPDCAサイクルといいますが、まちづくりはPP...とずっと考えてしまい、いつのまにか失敗しないアクションになってしまふ。これでは何も生まれません。そうではなく、1(インスパイア、インスピレーション) + DO、考えて動く体質に変えること。とりあえずやってみることで。「成功する」ではなく、「成功をめざした」まちづくりがいいんです。

松本 スペインのバスケット地方のまち、サン・セバスチャンは人口18万人ですが、世界中から人々がやってくる世界一の美食のまち。まち全体で新しいバスケット料理をつくらうと運動を始め、店同士でレシピを教え合い、お互いが協力して食文化をつくってきた歴史があります。旧市街の路地にはバルが100店もあり、もちろん地元の人々もそこで飲み、食べ、語らっている。みんなが集まる場所がまちの中心にあるのです。

この根底にはカルチャーがあります。どこかの模倣をするのではなく、地域のよいものを最大限活用する。そこにこれからの地域

再生不能といわれたまちが、今では全米のまちづくりの賞を総なめにし、世界中から注目されるまちになっていきます。民間、行政、住民が一体になってつくりあげたまちのポリシーは、「サステイナビリティー(持続可能で人にやさしい暮らし方)」と「ウィアード(個性や自分らしさを大切に)」です。まちの中心はエコ・コンパクトシティで、主役は人。車社会のアメリカで、中心部から車をなくして、歩きやすいまちをつくりました。加えて、ミクスْتُユースによるまちづくりです。住む、学ぶ、働くがひとつになったまちには、定住人口、交流人口とも増え、にぎわいが自然に生まれています。人々が集う空間に、すばらしいコミュニティが育っています。

地域の宝を生かす ローカルファースト

坂井 手がけてこられた地方創生の成功事例をご紹介ください。

後藤 地方の人には場所のコンプレックス、劣等感があります。自分たちの地域をマイナスにとらえている。違いがあることは個性ですが、個性と認められない、もつ

のあり方が示されているのではな

世界との関わりと これからの地方都市

後藤 グローバルバリュー、グローバルエッジ。世界で価値があるか、エッジがきているかを常に考えてほしいと思いますね。

物だけではなく、景観を含めた場所の価値、それに人。この3つを組み合わせることで、真のグローバルバリューが生まれます。

松本 地方の商店街を、ギャザリングできる、心ときめく場所にしたいですね。ギャザリングは社交的でアットホームな集まりのこと。パリにはパサージュと呼ばれる魅力ある路地が100カ所も残っています。こういう人々が集まる通りをつくりたい。



坂井 ありがとうございます。最後に、このフォーラムを共催するURは大きな技術者集団で、経験も豊富です。地方都市再生のプラットフォームとして、コーディネーター業務をどんどん進めていただきたいと思っています。

たいと思っています。

たいない状態です。

ですが私は、場所のコンプレックスを意識してほしいと思います。なぜなら、コンプレックスとの対峙が、自我を拡大するからです。コンプレックスと対峙することで、人間の心が育ち、地域の成長につながります。個性を磨き仕掛けるために、地域の方言、景観、料理や建物なども含めてどう生かすか。重要なのは量ではなく質です。

私はこれまで小麦畑でワインとチーズのひと時を過ごすしつらえをつくったり、雪原にS級のレストランをつくりました。圧倒的なローカルな景観のなかで、極上の食を楽しむ場です。「まるで海外にいるみたい」とお客さまが感動します。「しかない」ではなく、「しがある」と考えることが重要です。松本 「ローカルファースト」と「CSV」は、地方創生の突破口になると思います。

地方都市再生に取り組み URにご期待ください

UR都市機構 理事 中島正弘



私たちURは、東日本大震災の発災以降、東北の復興事業に全力で取り組みできました。これからURは、今までの経験やノウハウを活かし、地方都市再生に本気で取り組みます。この日経ビルのある大手町の再開発にもURは関わっています。こういうスケール感のあるものだけでなく、地方都市における多様なニーズに対しても向き合っています。これまでも団地の再生でかわりのできた、ネットワークも活用するつもりです。団地ではコミュニティづくりも進めてきました。私どもはそういった小さな工夫にも、いささかノウハウがあります。そして、いつも時代の要請に応え、地域に求められる開発やまちづくりを行ってきたプライドがあります。新しい挑戦に取り組みたい。今、私たちは気合を入れ直しているところです。



沼津市で進むまちづくりを 支援する基本協定を結びました

URは昨年8月、静岡県沼津市が進める「人と環境を大切に
県東部広域拠点都市」の実現に向
けたまちづくりを推進することを
目的として、沼津市と相互に連携
する協定を締結しました。

- URは①まちづくり方針と整備計画の策定 ②官民連携による都市機能の誘導と更新
- ③沼津駅前前広場の再整備など公共空間の再編
- ④その他持続可能なまちづくりを行うにあたり必要な事項。以上について連携を行っています。



2018年8月に行われた締結式。

日経地方創生フォーラムより
沼津市長 頼重秀一氏

これからの沼津のまちづくり ——鉄道高架を活かして

沼津市は鉄道によって市街地が南北に分断され、市の強みが市域全体に広がりにくく、中心市街地の回遊性がよくないという問題を抱えています。そこで南北の一体化をめざして取り組んでいるのが、沼津駅周辺総合整備事業です。

まず8路線の道路を立体交差化し、13カ所の踏切を除去。貨物駅を8キロ西へ、車両基地を2キロ西へ移転。3カ所のガードをすべて4車線の幹線街路に変え、駅の南北を結ぶ道路や通路を、新たに10本整備します。これにより、南北の人の流れがスムーズになり、

中心市街地の回遊性が大幅に高まると考えています。

今後、駅周辺に生まれる広大な鉄道跡地は、公共利用や民間投資の活用を図り、まちの活性化を促進。高架下スペースとして約4・7ヘクタールが利用可能となり、新たなまちづくりが始まります。昨年11月には「中心市街地まちづくり戦略会議」を設置。有識者や事業者、市民、行政とURに参加してもらい、さまざまな意見を求め、関係者間での情報共有、調整と連携を進めています。

この会議では、駅周辺の公共空間をヒト中心の空間に再編すること、鉄道跡地等の利活用や、都市のポテンシャルに対応して、新たな都市機能を導入することなどが検討のテーマとなっています。現在の取り組みとして、まず既



存ストック（公共空間）の活用があります。道路や公園、河川などの公共空間を実験的に活用して、日常的なにぎわい空間の創出を目指しています。同時に、リノベーションによるまちづくりを推進。民間の既存ストックを使ったゲストハウスやダンス&カルチャースクール開業なども始まっています。また、URには駅前の西武百貨店跡地の取得にもご協力いただきました。

昨年11月には中心市街地で歩行空間化社会実験を4日間かけて行い、現在分析中です。沼津駅と沼津港の間でEVバスの試験運行も行いました。これらの事業を通して、ヒト中心の質の高い空間整備を実現し、「誇り高い、元気なまち沼津」をつくりていきます。

URは大火からの速やかな復興と、 未来のまちづくりを支援

新潟県糸魚川市

2016（平成28）年12月22日に発生した糸魚川市駅北大火は、被災者状況145世帯、260人、消失面積約4万㎡にも及びました。URは国の要請にもとづき、被災直後にいち早く現場に入り、早期復興に向けた取り組みを支援してきました。

- 具体的には、①災害復興の経験を活かした市の計画策定支援 ②事業経験に基づく最適な事業スキームの提案と技術的支援 ③被災前からの課題であったにぎわい創出に向けた支援。以上3つの役割を担い、現在も活動を続けています。



2018年4月に開かれた復興マルシェ。

火まで約30時間。まるで戦災を受けたようなまちの姿を見て、どこから手をつければいいのかと、不安にさいなまれたことを覚えています。3日後の12月25日、道路上のガレキが撤去され、車両の通行が可能になり、2カ月後には、建物基礎部を残して地上部分のガレキの撤去が終わりました。17年2月1日、国交省URのご支援を受け、復興推進課を立ち上げ、8月22日には「糸魚川市駅北復興まちづくり計画」を策定することができました。情報不足が一番被災者を不安にさせます。

日経地方創生フォーラムより
糸魚川市長 米田徹氏

糸魚川市駅北大火の 復興の向こうへ

そこで私どもは火事の5日後に全員説明会を開き、それから毎月定例の説明会を設けて、被災者への情報提供に努めてきました。計画をオープンにすることで、被災者と市民が今後の対応を共有することができるようになるためです。17年10月には、被災地に残っていた基礎部分の撤去と用地測量を終え、大火から2年後の昨年12月には、市道の幅と40棟の住宅、事業所と、耐震性大型防火水槽が完成しました。



これほど短期間にまちづくりが進められたのは、国、県、URからの支援、それにとくさんのボランティアや応援のおかげです。糸魚川市の復興まちづくり計画は、①災害に強いまち ②にぎわいのあるまち ③住み続けられるまちの3つの柱からなります。特

に失われつつあった市街地のにぎわいを取り戻すことは今後の大きなテーマで、まさにいま、仏に魂を込める段階にあると思っています。

にぎわいづくりに向けた柱は3つです。①リノベーションまちづくりでは、新しい発想で空き家や空き地を活用し、リノベーションスクールを開いて、面白い人たちの化学変化に期待しています。②にぎわい創出広場の整備では、全天候型の広場に市民が集うきっかけの場づくりを行っています。③にぎわい拠点施設の整備は、子育て支援施設などへの集客を周辺の消費に波及させることが目的です。この3つの柱を連動させて進めていきます。いま、大火から立ち上がるまちの中に、少しずつ明るい兆しが見えてきました。空き物件のリノベーションや復興マルシェの開催をはじめ、若者を中心とした団体が生まれ、活動を開始したことも心強い限りです。そしてこの被災地の復興の取り組みを、市内全体へ広げ、地域内の連携や愛郷心を育てることなどにつなげていきたいと考えています。

梅ノ木団地

福岡県遠賀郡

大学とコラボ、集会所を明るく変える！



自治会から団地近くの中学校にも声をかけ、美術部の生徒さん2名も参加した。団地の皆さん、九州女子大の皆さん、それに関係者で「お疲れさま！」の記念撮影。



「ローラーは下から上へ、塗料を置いていく感じで」との説明を真剣に聞く皆さん。塗ってみると、これが楽しい。



「学生さんたちが行ったプレゼンでは、若い人たちの感性に刺激を受けながら、私たちも積極的に意見を言わせてもらいました。日頃、めったに話す機会のない

団地に住む中島洋子さんは、
「学生さんたちが行ったプレゼンでは、若い人たちの感性に刺激を受けながら、私たちも積極的に意見を言わせてもらいました。日頃、めったに話す機会のない

**新しい集会所で
やりたいことがいっぱい**
さっそく作業開始。レクチャーの後、みんなで分担して壁や戸棚を水性塗料で塗り始める。

うららかな秋の土曜日、梅ノ木団地の集会所に、団地に住む人たちと、ピンク色のつなぎ姿の女子大生、それに作業をサポートする業者さんたちが集まってきた。今日は、梅ノ木団地集会所でDIYイベントが行われる。約35畳ある集会所の壁を、自分たちの手で、自分たちが決めた色に塗るのだ。
URは昨年7月、北九州市八幡西区にある九州女子大学と連携協定を締結。集会所の改修にあたり、学生たちの力を借りることにした。
現在の集会所は、団地に住む人たちが、老人会や地域活動に頻繁に利用しているが、火を使った調理のできるキッチンがない。九州女子大学と連携内容について話していたところ、団地自治会から「調理ができる設備を作ってほしい」という要望があり、URは集会所の改修を決定。これを機会により使いやすい集会所に改修し、ここを拠点に幅広い世代の交流が生まれる場をつくるのが狙いだ。そしてこの日、団地の皆さんだけでなく、学生さんたちも一緒に集会所のDIYを行うことになったのだ。

集会所を明るく改修し、より使いやすくなる。団地の魅力がアップするだけでなく、そこからさまざまな出会いが生まれることだろう。

集会所を明るく改修し、より使いやすくなる。団地の魅力がアップするだけでなく、そこからさまざまな出会いが生まれることだろう。

「集会所が3カ月間閉まっていたので、みんなオープンを心待ちにしています。まずは新年会かしら。そのときは一緒にペンキを塗った学生さんたちもお呼びして、みんなで新しくなった集会所の門出をお祝いたいですね」と中島さん。

「集会所が3カ月間閉まっていたので、みんなオープンを心待ちにしています。まずは新年会かしら。そのときは一緒にペンキを塗った学生さんたちもお呼びして、みんなで新しくなった集会所の門出をお祝いたいですね」と中島さん。

学生たちを率いる九州女子大学家政学部人間生活学科の前田修吾教授がこう説明する。
「URさんから集会所改修と一緒に、というお話をいただき、学生たちに声をかけたところ、みんな「やりたい！」と積極的に手を挙げてくれました」
ピンクのつなぎ姿の3年生、阿部桂子さんが、さらにこう話す。
「集会所の壁や天井の色をどうするか。皆さんからいろいろ意見は出るんですが、なかなか決めきれないので、まず私たちがいくつか候補を決め、団地に伺って皆さんにデザイン案を見ていただきながらプレゼンしました。あたたかな雰囲気がいい」という意見が多く、オレンジ色が候補になりましたが、オレンジ色は飽きるかも、という意見もあって、3回のプレゼンを経て、最終的にこの色に決定しました」
その色とは、天井

梅ノ木団地は北九州市と隣接した遠賀郡にある。



中学生、大学生と団地の皆さんとの共同作業だ。集会所は2月上旬に完成した。



戸棚の建具も同じ色で塗る。まずは養生テープを貼って……。

梅ノ木団地の活性化に力を注ぐUR職員、左から杉田典夫、小川和朗、古澤龍之。





DANCHI PICKS **楽しい 団地**

花見川団地 千葉市花見川区

HANAMIGAWA

団地に生まれた「LDK」が、内外から人を呼ぶ



「はなみがわLDK+」の前に集合した、左から、LDK+の管理運営を担う株式会社フォーシーカンパニーの大津真人さん、中屋フルーツの大澤幸治さん、「くまで舎」の清水由香さんと母の由美子さん、URの宇内。

日 本各地で進む少子高齢化。約7500世帯、1万2000人が暮らす花見川団地も、誕生から50年を経た現在、高齢化とともにひとり暮らしの世帯が多世代にわたって増えている。

URが地域医療福祉拠点化に取り組んでいる同団地は、多様な世代の方々に末永く住んでもらうことを目指しているが、そのためにも団地を活性化し、団地の価値を向上させたい。そんな時、URと千葉市が団地に住む65歳以上の方々に行ったアンケート調査などで、2つのキーワードが浮かび上がる。それが「食」と「つなぐ」だ。URの宇内大樹が説明する。

「誰かと食事をする機会が多い人、友達と会う頻度が高い人ほど、幸福度が高い」という相関関係がわかりました。また、お一人で食事をする孤食の増加も見えてきました。一方で、共働きによる子どもの孤食や、若者世代が地域とのつながりを持たなくなってきたことも課題です。それらを解消するために、誰もが必ずとる『食』と『つなぐ』をテーマにした拠点整備を進め、多世代交流を図ろうと考えたのです」

さっそく商店街振興組合、団地自治会などと連携しながら、商店街の空き店舗に、キッチン付きのレンタル・コミュニティスペースをつくることにした。企画したのは、宇内をはじめとする当時URの千葉エリアを担当していた7人の若手職員たち。打ち合わせを重ね、コンセプトから内装などの細かな仕様までアイデアを出し合った。

「今日は何の店かな」と団地の人々が楽しみに

18年2月、商店街の中ほどに「はなみがわLDK+」がオープンした。「LDK」という名前には、「みんなのリビングダイニング空間でありたい」という思いを込めた。

スケルトン状態の1階店舗にキッチンを整備し、正面の壁面は黒板塗料で仕上げ、子育てママにも優しい畳敷きの小上がりもつくった。住居だった2階は床をフローリングに変え、さまざまな用途に使えるスペースに。1・2階あわせて約100㎡。ここを1時間500円（水道光熱費込）の利用料で貸し出し、毎日さ



UR千葉エリアの担当で、LDK+を企画した若手メンバー。左から峯友由季、苫米地貴廣、瀬下純平、赤堀圭佑、宇内大樹。ほか福田盛樹、北村沙織らが、内装からPRイベントまで企画実施した。

車が通らず、安心して買い物ができる団地商店街。LDK+から発展して新たな店が生まれる可能性は高い。

武田ちよこ=文、菅野健児=撮影



「くまで舎」人気のスイーツには、お隣の「中屋フルーツ」の上品な果物がふんだんに使われている。牛乳や卵を同じ商店街のスーパーで調達することもある。

右／今日はカフェと古道具の「くまで舎」が出店。店主の清水由香さんは、月の半分は派遣社員として企業に勤めているそうだ。店内ではお正月飾りをつくるワークショップが開かれていた。

下／メニューや催しをわかりやすくお知らせできるように、壁面を黒板塗料で仕上げた店内。



さまざまな出店者に活用してもらおう。子ども食堂のような非営利の団地貢献活動は利用料を無料とし、持続的な活動になるよう支援している。

「いきなり店を開くのはちょっと、という方が、トライアル出店できる場所も目指しています。ここでまず店のファンをつくり、やがて商店街に店を構えてもらうのが理想です」と宇内。

始めてみると、スペースの使い方はさまざま。昨年12月のスケジュールを見ると、1日はクリスマスマーケット、2日は「花の子食堂」（子ども食堂学習支援活動）、5日は団地に住む女性が店主の女性限定のリンパエステ、18〜22日はカフェと古道具の「くまで舎」が営業という具合で、子どもの誕生日会といった個人利用もできる。これらの予約の受付など管理運営は、(株)フォーシーカンパニーの大津真人さんが担当する。

質のよい果物と野菜を扱う「中屋フルーツ」。商店街では自転車送迎サービスや御用聞きサービスなど、団地に住む高齢者の買い物支援に乗り出している。

利用者は増加し、10月には400人近くに。これはレジを通じた人数なので、実際にはもっと多くの方が足を運んでいる。年代も30〜40代を中心に高齢者まで幅広く、団地の外から訪れる方もいた。

カフェ巡りのお客さんが団地外からもやってくるという「くまで舎」の清水由

香さん。母のつくるドライフラワーを千葉県内の手作りマーケットに出店していたが、知り合いのUR職員からここを紹介され、すぐに申し込んだという。

「いつか団地でお店を始めてみたいと思っていたので、願ってもないチャンスでした。今は月のうち10日ほどここに来店して、どういうお客さんが来てくれるのかを見ています」と話す。

このくまで舎で出される人気スイーツには、隣の「中屋フルーツ」の果物が使われている。「中屋フルーツ」のご主人3代目になる大澤幸治さんは、団地商店街振興組合の副理事長を務め、LDK+の日々の運営管理にも協力している。

「LDK+にはいろんな出店があるので、今日はどんな店かなと皆さん楽しみにしています。それが商店街に足を運ぶきっかけにもなっている。「くまで舎」のお客さんがうちの店にも寄ってくれるなど、LDK+ができてから、商店街の回遊性が高まったように思います」と、この取り組みを評価する。

LDK+の担当者である宇内は、団地の人々のコミュニティづくりをもっと進めたいと考えている。そのひとつとして、昨年LDK+で開いたのが、「ふるさとでつながろう会」。同郷の知り合いをつくり、孤立を防ぐのが目的だ。

花見川団地に生まれた小さなLDK+が、人々に新たな刺激を与えはじめた。



民生委員でもあり、団地商店街で定食屋を営む女性が仲間と始めた「花の子食堂」。「はなみがわLDK+」で月1回開かれ、毎回たくさんの親子連れや子どもたち、高齢者でにぎわっている。

「花の子食堂」の日は、2階で大学生が宿題などの勉強を見てくれる。こちらだけの利用も可能。





道内初の多面舞台、三層バルコニー付き観客席をもつ札幌文化芸術劇場。「文化芸術を発信する新しいホールをつくりたい」という市の思いが実現した。

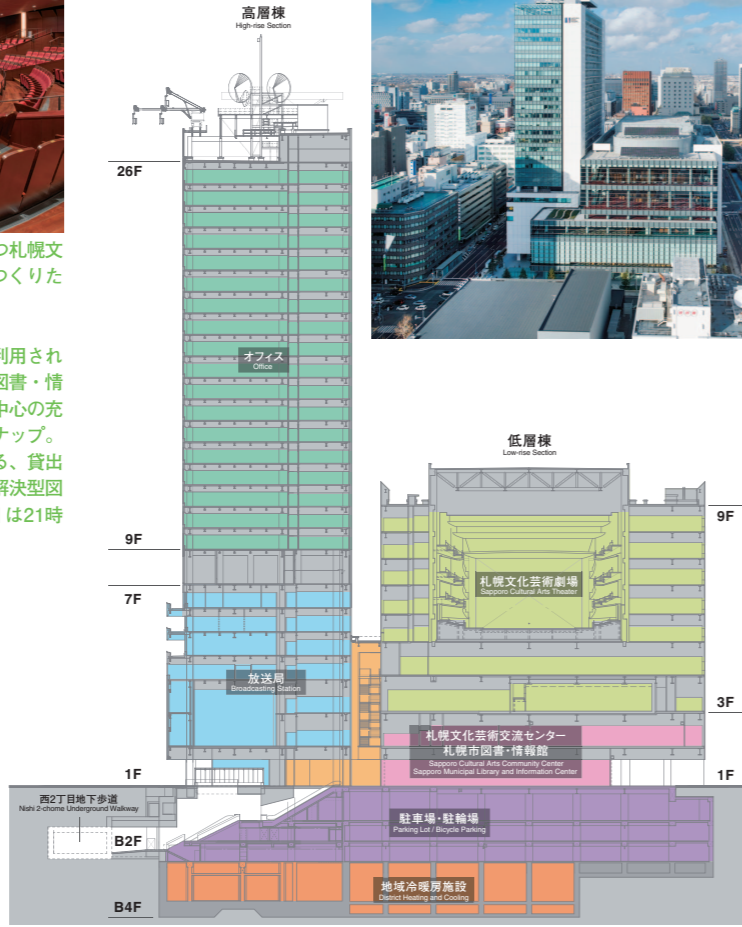


幅広い年代に利用されている札幌市図書・情報館。実用書中心の充実したラインナップ。市の運営による、貸出はしない課題解決型図書館だ。平日は21時まで開館。



事務局として調整に尽力してきたUR札幌都市再生事務所の金井潤一(上)と、課長の大谷 聡(左)。さっぽろ創世スクエアは寒冷地仕様で、敷地内も歩道もロードヒーティング設備を整えた。

東西方向の断面イメージ図



中央のさっぽろ創世スクエアをはさんで、左手(西側)に札幌市時計台などがある。右手の創成川公園の先(東側)にもにぎわいが広がっている。



札幌市の職員として、熱い思いをもって、このプロジェクトに6年ほどかかってきた松本智史さん。



URの
まちづくり
最前線10

最新鋭の環境性能・防災性能を備えたハイスpekビルとしても注目されるさっぽろ創世スクエア。

さっぽろ創世スクエア 札幌市中央区 ここからさらに広がりを！ 札幌のまちのにぎわい拠点誕生

東西南北に直線道路がクロスする札幌の中心市街地。その基点である大通公園と創成川が交差する「創世1・1・1区」と呼ばれるエリアが生まれ変わり始めている。文化芸術の発信、交流の拠点「さっぽろ創世スクエア」が誕生し、人が集まり始めた。

「創世1・1・1区」と書いて、「そうせいさんく」と読む。大通東1丁目、大通西1丁目、北1条西1丁目という3つの1丁目が集まる、札幌中心市街地の基点であるエリアの名称だ。そしてここが札幌中心市街地のまちづくりの舞台である。

2018(平成30)年10月に北1条西1丁目街区に大規模複合施設「さっぽろ創世スクエア」がグランドオープンし、風景が激変した。地上27階、地下4階。低層棟には札幌文化芸術劇場や札幌市図書・情報館といった公共施設や店舗などが入り、高層棟には放送局やオフィスが入居している。外光の入る開放感あふれる建物で、公共施設エリアの随所に椅子やベンチが置かれていて、読書やおしゃべりを楽しむ人たちの姿が見える。平日の夜も仕事帰りの人々にぎわっている。「市民から『以前はこのあたりはわざわざ来る場所ではなかったけれど、さっぽろ

創世スクエアができて、来たい場所になった」と言われたときは、うれしかったです」

と話すのは、札幌市まちづくり政策局の担当係長・松本智史さん。もともとこのエリアは、札幌市時計台やさっぽろテレビ塔、また地下鉄3線が乗り入れる大通駅にも近い好立地。にもかかわらず駐車場と古いビルがあるのみで、人が訪れる場所ではなかったという。そのため札幌市が中心となり、中心地のにぎわいづくり、魅力向上へ向けて20年以上前から新たなまちづくりを進めてきた。中心地のにぎわいを、創成川の東側にも広げたいとの思いもあった。

業態の異なる地権者の要望を調整して

さっぽろ創世スクエアのプロジェクトには、個人の地権者がいない。札幌市、明治安田生命保険相互会社、パーク二四(株)、

地震のときは地域の防災拠点に

さっぽろ創世スクエアの周囲には歩道状空地や、3つの辻広場を設けている。さらに隣接街区からも通り抜けられる通路を建物内につくったり、図書・情報館や店舗を1、2階に配置して、外からも中の人の様子が壁面のガラス越しに感じられるようにしたのは、ここを拠点に周囲へにぎわいを広げたいという思いの表れだ。地下には駐車場や駐輪場があり、札幌の人々の重要な交通路である地下歩道へも館内からアクセスできるようにしている。

また地域冷暖房プラントを整備し、コージェネレーションシステムの導入により停電時も電力供給が可能な体制を整えた。昨年9月の北海道胆振東部地震で周囲が停電した際も、このビルは電力の供給が継続できたため、外国人観光客向けの臨時避難所を設置するなど、地域の防災拠点としての役目も果たした。

「創世1・1・1区」のまちづくりのリーディング・プロジェクトとして進められてきた「さっぽろ創世スクエア」。文化芸術の発信地、人々の活動・交流の場が誕生したことで、今後の札幌都心におけるまちづくりへの地元の人たちの期待も大いに高まっている。

千葉県 浦安マリナースト21周辺

URが手がけた団地のまわりには、素敵なまちが広がっています。地図を手に歩いてみませんか?

団地	戸数	管理開始
浦安マリナースト21フォーラム海風の街	387	1988年
浦安マリナースト21望海の街	850	1994年
浦安マリナースト21潮音の街	200	1994年
浦安マリナースト21海園の街	500	1998年

浦安猫実貴重な建物

- 1 旧医院: 昭和4年築 浦安最初の洋風建築
- 2 旧大塚家住宅: 江戸時代末期築
- 3 末広湯: 超! 昭和レトロ
- 4 旧宇田川家住宅: 市内最古・明治2年築の貴重な商家遺構

浦安猫実グルメ

- 5 田中屋海苔店: 青のりの風味豊か!
- 6 さつまや: 昔ながらの手焼き+秘伝のタレ=超美味!
- 7 猫実珈琲店: オナの思いあふれる小さなカフェ

浦安猫実

- 浦安の銭湯は350円♥
- 今も廃材や薪でわかしているお湯は、「やわらかい」と人気!
- 半日は子育てサロンで利用
- 入口の作りなご商家ならではの盛りだくさん!
- 精巧な人形と優しい解説スタッフがお出迎え
- 海苔漁師が大勢入ったあとはお湯が「海苔色」だったそう
- 魚のあとは帰宅前に銭湯でひとっ風呂
- 海苔漁師がぎっしり!

浦安猫実

- 浦安の歴史を見て、さわって体験できる。見どころ満載!
- 浦安市郷土博物館
- 浦安市役所
- 境川 東水門
- 浦安市観光インフォメーションマレ
- 浦安駅前
- 若潮公園: チビッコ連れに超うれしい公園
- となりは交通公園!
- 小動物ふれあい広場や体験学習施設があり生き物がたくさんいます!
- まんなかにはのどかな小山
- 創業80余年、今3代目の老舗です。浦安で生まれ育って、浦安の変化もずっと体験してきたけど、人の親切さときっぷのよさは変わりません!
- 田中屋海苔店 田中弘子さん

浦安猫実

- 浦安の対照的な2つの魅力をぜひ感じてください! 元町エリアの人はとりわけ情に厚くてあったかいですよ♥
- ぶらり浦安ガイド 会長 草場聖子さん
- 週末にはボランティアの「ぶらり浦安ガイド」スタッフが常駐
- このあたり一帯 233haはURが造成しました!
- 記念すべき第1号エリア!
- フォーラム海風の街: 全23棟 (内賃貸5棟)
- マレでしか買えない! ぶらり浦安かりん
- かつての浦安漁師の赤銅色に日焼けした笑顔をイメージしたかりんとう饅頭
- オープンスターで2分チン! で驚きのおいしさに!
- 子育て世代に人気! 望海の街: 全14棟
- 子育てサロンを定期開催!
- 公園と境川に面した落ちついたまち! 海園の街: 全11棟
- 西谷高洲支店: 創業1913年の江戸前佃煮店
- 海が間に広がる! 潮音の街: 全9棟 (内賃貸3棟)
- 最高に気持ちいい展望台!
- 第1期埋立地の堤防跡がそのまま一直線に残る
- LAUMELIA: メルセデス・ベンツ浦安に併設のカフェ
- メルセデスパンケーキ
- カリフォルニア!? 総合公園: 広大な芝生広場は約3.5ha!
- ひらける海!
- 新浦安のビューポイント!
- 海浴いもゆったりくつろげます!
- 高洲海浜公園

浦安猫実

- 浦安の対照的な2つの魅力をぜひ感じてください! 元町エリアの人はとりわけ情に厚くてあったかいですよ♥
- 2つの魅力が味わえるまち 浦安!
- なんと面積は4倍に!
- 元町の浦安市元町
- 第1期埋立て (昭和40年~) 中町
- 第2期埋立て (昭和47年~) 新町
- 魅力① 漁師町の風情たっぷり元町エリア!
- 魅力② アメリカ西海岸のリゾートのように感じられる魅力たっぷり新町エリア!
- ディズニーリゾート
- クジラも見られるかも!? 年に1~2回、目撃情報が!
- 千葉県が保護を決めた約1800haの干潟
- 三番瀬
- 多種多様な生き物の宝庫
- 2019年5月、三番瀬環境観察自然園オープン予定!



どうにかお正月に間に合いました!

右/町道の完成を機に、交流人口を増やしていきたいと語る阿部幸榮商工会長。下/まちの中心地に立つ陸中山田駅。3月23日に三陸鉄道リアス線として運行再開する。



左/年内の完成は、町・UR・施工者が三位一体となって取り組み実現した。左からUR岩手震災復興支援本部長の栗原徹、佐藤信逸町長、UR山田復興支援事務所長の才田浩、山田町震災復興事業共同企業体の西彰一所长。



「町道 細浦・柳沢線 開通式」には地元でおなじみの八幡大神楽も登場。子どもたちも参加して盛り上げた。

WEB UR PRESS

「UR PRESS」オンライン版で、パソコンやスマホからダウンロードで撮影した山田町の動画をご覧いただけます。



復興の「今」を見に来て!

第15回

山田町
岩手県

高台を結ぶ 悲願の町道が完成

地元の八幡大神楽の演舞にテープカットと続き、喜びにあふれる時間となった。

この町道が重要なのは、①病院、消防署、交番などの公共防災エリアや住宅地を整備した高台地区、②駅や商店が集まる山田中心地区、③町内外へアクセスできる「三陸縦貫自動車道」山田インターチェンジの3拠点をつなぐ役割をもつこと。この道路が整備されたことで、国道45号が通行不能になった場合でも防災拠点から町内全地区への救助・救援活動が可能となり、低地部から高台へ避難するルート、さらには町内外への物資輸送や災害支援も可能となった。

この町民悲願の町道の整備を担当したのはURだ。山田町から「復興市街地整備事業」「災害公営住宅整備事業」に加え、防災機能強化に重要な「関連道路事業」もあわせて受託したUR。事業を同時並行的に進めることで、迅速かつ効率的に復興事業を進めてきた。

UR山田復興支援事務所長の才田浩は、「復興事業は時間との闘いだ」と語る。被災された方々の

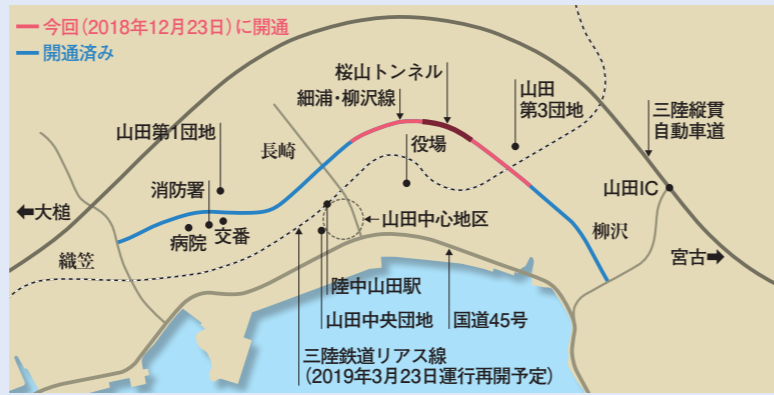
一日でも早く 迅速かつ効率的に

瞬にして陸の孤島と化した東日本震災当日のことを、そう振り返るのは山田町の佐藤信逸町長だ。あの日、地震発生約30分後に山田町に到達した津波は、防潮堤や河川堤防を破壊し、多くの建物を呑み込んだ。そして膨大な瓦礫は沿岸部の国道45号を寸断し、通行不能にした。

国道45号以外に迂回路のなかった山田町は各地区が孤立し、救助・救援活動や物資の輸送活動に

「仕事の歧路に立ったときは「住民の皆さんのためにいかに早く復興ができるかを最優先で判断すれば自ずと道は見えてくる」とメンバーに伝えてきました」

タイムロスをなくすことを自身にも仲間にも命じ、数々の困難を乗り越えてきた才田。開通式当日には佐藤町長から「目に見える変化を年末年始に帰省する人たちにぜひ見てもらいたかったので、



完成したばかりの桜山トンネル入口でテープカット。トンネル部の地質は硬い岩盤が多く、苦労して施工した。

この日、桜山トンネルを含む区間が開通したことで、すでに開通している区間とあわせて約3キロメートルの「町道 細浦・柳沢線」が全線開通した。

桜山トンネルの入口で行われた「町道 細浦・柳沢線 開通式」は佐藤町長のあいさつに始まり、来賓祝辞、

支障をきたす状況に。同時に町外とのアクセスも絶たれ、状況を伝えたくても伝えられない窮地に追い込まれた。

40年の時を経て 道路計画が実現

悲嘆にくれたその経験から、山田町では復興計画に「高台住宅地への集団移転」とあわせて、「アクセスネットワークの整備」を掲げた。実は地区間を結び、高台を

支障をきたす状況に。同時に町外とのアクセスも絶たれ、状況を伝えたくても伝えられない窮地に追い込まれた。

40年の時を経て 道路計画が実現

悲嘆にくれたその経験から、山田町では復興計画に「高台住宅地への集団移転」とあわせて、「アクセスネットワークの整備」を掲げた。実は地区間を結び、高台を



URさんには無理をお願いして年内完成を実現していただき感謝申し上げます」と言葉がけられた。親族や友人を亡くしてつらい思いをしている町の方たちから「工事の騒音やほこりは我慢するから、早く安全なまちをつくって」と声をかけられ、これまでに経験した中でもとりわけ大きなURへの期待を山田町で感じ続けてきた才田「安全なまちをつくってこれてありがとう」と感謝されるたびにやりがいを感じるという。

町道開通で近隣の宮古市や釜石市へアクセスしやすくなったため、町外へ人が流れるのではという危機感を抱く商店もあるが、山田町商工会の阿部幸榮会長からは「自助努力でお互いがレベルアップしていけたらと思っています」と頼もしいお言葉。

利便性を高めるだけでなく、新たな世界とつながり、まちに息を吹き込む扉となる道が通ったのだ。

隠れた名店
見つけた!

おいしい団地 2

団地の外からもお客さんがやってくる
人気を誇る名店がある。そんなお店を訪ねて、
団地に足を運んでみませんか？

千葉県 金杉台団地

cafe de STELLA



上/デニッシュパンにアイスクリームをトッピングした人気のデザート、クロッシュ(410円)。メープル、チョコ、黒蜜きな粉味がある。
右/おかずパンから菓子パンまで種類豊富な焼き立てパン。手ごろな値段段がうれしい。



上/元気いっぱいのスタッフの皆さん。「働くことがとても楽しい！」と78歳の小山たつ子さん(左)と右/コンフォートケアの代表・形山昌樹さん(右)と近隣のグループホーム・みかんの樹を担当している今泉尚也さん。



地域の交流の場 焼き立てパンのおいしいカフェ

JR船橋駅からバスで20分ほど、金杉台団地の商店街にあるベーカリーカフェ「cafe de STELLA」は開店して2年目。毎朝9時のオープンと同時にお客さまがやってくる。焼き立てパンの香り漂う店内では、サンドイッチやハンバーガー、パスタなどの軽食やスイーツも楽しめる。焼き立てパンは100~150円ほどで、種類もたくさんあって選ぶのに迷ってしまう。

「高齢の方でも毎日、気軽に通いたくなるような場所をつくりたいと思いました。団地に住んでいる方や地域の方々の交流の場になればうれしいです」と話してくれたのは、このカフェの経営母体で、近隣でグループホームなどの介護福祉サービスを展開する「コンフォートケア」代表の形山昌樹さん。「このカフェにはもう一つ役割があります。それは高齢者や認知症の方々の働く場にもしていくことです」と形山さん。認知症のグループホームを利用する78歳のおばあちゃまが、今日も朝から元気に出勤。地域の交流の輪が広がっている。

千葉県船橋市金杉台1-1-5
☎047-404-9852
◎9~18時 ㊟土・日曜



ソファが置かれ、ゆったりとしたカフェスペース。

石井克美=文、菅野健児=撮影

東京都 大島四丁目団地

純喫茶ヤング

ボリューム満点なナポリタン、ピザトーストやフレンチトースト、パンケーキなども人気だ。



オープン当時と変わらない店内。ゲーム台のテーブルは、なつかしい昭和の時代を感じさせる。

東京都江東区大島4-1-7-113
☎03-3637-7972
◎9~18時ぐらい ㊟不定

近隣で働く人たちが 団地の人々が集う喫茶店

都営新宿線・西大島駅近く、大島四丁目団地の1階にある「純喫茶ヤング」は、昭和を思い起こさせる喫茶店だ。大島四丁目団地が完成した昭和44年にオープンして以来、団地と共に半世紀、このまちの皆さんに愛され続けている。

「オープン当時、この辺は工場が多くてね。モーニングの提供からはじまって、コーヒーやパフェ、軽食を食べに、夜遅くまでたくさんの人たちで賑わっていました」となつかしように語るオーナーの若井新司郎さん。時代の変化とともに、店のスタイルを少しずつ変えてきたという。いまはランチメニューを充実させ、ピラフやカレー、パスタ以外に、しょうが焼きやチキンカツ、おろしハンバーグなどの定食と、冬には温かいうどんも提供する。

なかでも人気なのは、オープン当時から変わらないナポリタン。「シンプルですが、手を抜かずにつくることがおいしさの秘密」だと若井さん。なつかしくておいしい喫茶店を楽しみたい。



近隣の団地に住むオーナーの若井新司郎さん。店名の「ヤング」は、ずばり名字から。

埼玉県 所沢パークタウン駅前通り

BAR MAGIC SMOKE

「夢をかなえることができ、毎日とても楽しいです。気軽に立ち寄ってください」と住田宏行さん。



燻製の盛り合わせの内容は季節によって変わる。ほかにも自家製ソーセージや、チキンとマカロニのグラタンなどオープン料理を提供している。

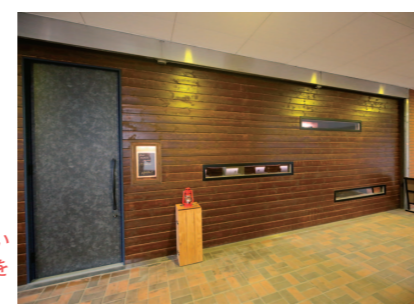
埼玉県所沢市並木3-1 4-111
所沢パークタウン商店街
☎04-2968-7774
◎17時~深夜2時 ㊟日曜

おいしいお酒と燻製料理が 自慢のショットバー

昨年11月、西武新宿線・航空公園駅から徒歩3分、所沢パークタウン商店街にオープンした「BAR MAGIC SMOKE」。「お酒も料理も大好き！」というオーナーでバーテンダーの住田宏行さんが、夢だったショットバーを開いた。所沢市内で物件を探していたところ、条件にぴったりだったのがこの場所。重厚感のある大きな扉を開けると、シックなインテリアで落ち着いた大人の雰囲気のバーカウンター9席と、4人掛けテーブルがひとつ。

「ここは日常から離れた空間。カクテルやウイスキー、焼酎など、いろんなお酒を気軽に楽しんでほしいです」

オープンして間もないが、団地の人々や仕事帰りの人たちがふらりと訪れる。お酒のお供にぴったりなこだわりの逸品は、チーズやベーコン、うずらの卵、魚介類などの自家製の燻製。旨い酒とおいしい料理をいただきながら、会話も弾む。つつい長居したくなってしまう店だ。



小さな看板しか出ていないので、大きなグレーの扉を目印に。



たかにもや
「備え・防災は日本のライフスタイル」をテーマに、自身が運営するWebサイト、各種メディアやセミナーを通じて防災を解説するフリーのアドバイザー。
「備える.jp」
http://sonaeru.jp

ぬいぐるみ防災リュックで、日常の延長を

子どもの不安を取り除くには、普段と変わらぬ生活をさせることが重要です。写真のぬいぐるみはリュックになっており、中に防災グッズを詰め込むことができます。夜間の大地震で停電したときには、ライト・軍手・スリッパなどが必要ですが、これら10のグッズを入れたぬいぐるみで、普段から子ども部屋や枕元に置いておけば、非常時に日常を持ち込むことができます。いつも食べているおやつ、好きなオモチャやゲームもこのリュックに詰めておきましょう。



文・写真 高荷智也 (ソナエルワークス代表)

子どもを守る防災対策

防災をライフスタイルに 非常時こそ日常を確保

災害時に開設される避難所。子どもがいるからといって、特別扱いを受けることは難しいのが現実です。おなかすけば不機嫌になり、退屈すれば走り回り、盛り上がりたてると大声を出す子どもたち（わが家も男児が3名いるため、まさにこれです）。避難所では周囲への気配りで、親子とも大変なストレスを抱えてしまいます。自宅在宅避難ができるよう、環境や防災備蓄を見直しましょう。

「安全ゾーン」をつくって避難訓練

耐震性能のしっかりした建物にお住まいであれば、家具の固定を万全にすることで、室内における大地震の脅威をかなり減らすことができます。子どもの成長に伴い増えていく家具……背の高い机、本棚、二段ベッドなどを固定し、家の中に「安全ゾーン」をつくってください。そして「緊急地震速報」が鳴り響いたら、揺れが来る前に安全ゾーンへ走って逃げ込む。揺れが小さくすんだ場合は、効果的な避難訓練になります。

「わが家ならではの」準備を優先的に

避難所では、食べ物に関しても特別な支援を受けることは難しいです。子どもに食物アレルギーがあったり、薬の服用が欠かせない場合は、アレルギー対応の非常食や予備の薬を準備するなど、わが家だけの対応が欠かせません。

また、非常食は好き嫌いのある子どもには食べづらいもの。備蓄品はふだんから家族みんなで試食をして、おいしいと思えるものを選びましょう。子どものいる家庭では、非常時にこそ普段の生活が継続できるような準備を心がけたいものです。

ロマネスコのだし浸し

パプリカの素揚げ (塩をふって)

鶏から揚げ (竜田揚げ)

油から上げるタイミングの見極めは、箸で持ち上げたときに鶏肉の微振動を箸に感じたら。そこで油を切って3分ほど寝かせると、余熱でちょうどよく火が入る。



万能なネギ塩ソース

長ネギ...1/2本(粗みじん切り)
にんにく・しょうが...各1片(みじん切り)
鷹の爪...1/2本(輪切り)
粉末鶏ガラスープの素...大さじ1
炒りゴマ...小さじ2
塩...小さじ1/2 サラダ油...1/2カップ

材料をすべて合わせるだけ。豆腐のにせたり、キャベツに混ぜたり、鯉の刺身とあえたり、チャーハンを味付けたり……と大活躍。冷蔵庫で5日ほど保存可能です。

キャベツの千切りと きゅうり

たまごサラダ

片栗粉をまぶします。肉に早める直前に塩を少しふってから揚げます。

揚げた後の油切りには、魚で肉汁となる水分が抜けてかたくならないように、揚げた後に網を敷いておけば、油が網に吸われて油が活ります。キッチンペーパーを敷いておけば、油が網に吸われて油が活ります。冷めてもおいしく食べられるように、ネギ塩ソースをかけてパンチを効かせました。

男子弁当 ススメ!

鶏から揚げ ネギ塩ソース弁当



文・写真 相田幸二

1975年、山形県米沢市生まれ。現在は宮城県在住。「幸せ料理研究家」としてテレビや雑誌で活躍。『こうちゃんの簡単料理レシピ』(宝島社)シリーズは230万部を超えるダブルミリオンセラーに。ブログ「こうちゃんの簡単料理レシピ」
http://ameblo.jp/wanwan2005/

ベランダで楽しむ 四季の寄せ植え vol.7

文・写真 黒田健太郎

パンジーとビオラで 初心者向けの 春の寄せ植え

春の遅霜の心配がなくなる4月中旬頃までは、耐寒性のあるパンジーやビオラの寄せ植えがおすすめです。最近では、花径が波打つフリル咲きの品種や、花径が数ミリしかない極小輪咲きの品種など、数え上げたらキリがないほど種類も豊富。11月下旬頃から園芸店には色とりどりのパンジー、ビオラが並びます。今回は、ごく一般的なパンジーとビオラを使って、小さなプランターで手軽に作れる寄せ植えを紹介します。使う株は4株と少ないですが、一つひとつに役割があります。主役はレモン色のパンジー、引き立て役はアプリコットとイエローのビオラ、ライムイエローのヒューケラで明るさをプラスして、ワイヤープランツで軽やかな動きをつけます。それぞれの生長後の姿を思い描きながら植えていきましょう。

手順

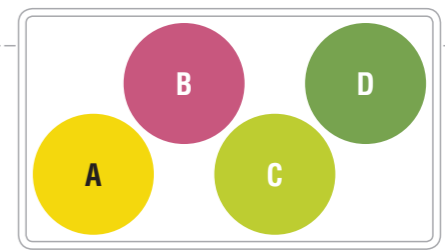
作業を始める前に、鉢の前に苗を並べて どう植えるか考える習慣をつけましょう

- 最初に、どこに何を植えるのか配置を考えます。
配置を考えるときは、植える順番も考えるようにしましょう。
- 鉢穴をネットでふさぎ、鉢の高さの1/5まで鉢底石を入れ、鉢の半分程度まで土(草花用培養土)を入れる。
鉢底に入れるのは、大粒の赤玉土でもOK。
- ポットから苗を出し、根鉢を優しくほぐして右図A B C Dの順で植え込んでいく。土の表面が鉢のふちから1~1.5cm下になるように高さを調節しながら1株ずつ植え込む。
右から左に土を寄せながら植え込むと植えやすい。強い力で土を押しこむと水はけが悪くなるので、やさしく押さえる程度。
- 仕上げに、ワイヤープランツの長い枝を手前や横に流して完成。



配置図

鉢のサイズ
横28cm
奥行き16cm
高さ12cm



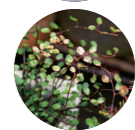
A パンジー (プリムローズシェード)



B ビオラ(コッパー)



C ヒューケラ (フリンジレモン)



D ワイヤープランツ (スポットライト)

管理のポイント!

日当たりと風通しのよい場所で管理します。パンジーやビオラは休まず次々と開花するので、花がらはこまめに取り除きます。固形肥料なら月に1度、液肥なら10日~2週間に1度施しましょう。

くるだけんたろう

埼玉県生まれ。園芸店「フローラ黒田園芸」勤務。自由な発想が生み出す洗練されたスタイルの寄せ植えが熱く支持されている。「12ヶ月の寄せ植えレシピ」(グラフィック社)ほか著書多数。



フローラ黒田園芸 http://florakurodaengei.com/

UR都市機構からのお知らせ

PHOTO & SKETCHING

東日本大震災 復興の歩みフォト&スケッチ展2018 受賞作品発表

URは、東日本大震災からの復興の歩みを広く発信するため、「東日本大震災 復興の歩みフォト&スケッチ展2018」の作品を募集し、多数のご応募をいただきました。ここに大賞受賞作品をご紹介します。

URのホームページにも、入賞作品や作品展の開催案内を掲載しています。ぜひご覧ください。



大賞(フォト)「最盛期」
有田勉さん(撮影場所:岩手県宮古市)



大賞(スケッチ)
「復興記念大祭~獅子舞と元気な祖母」
浅野健仁さん(描いた場所:宮城県本吉郡南三陸町)



入賞作品・作品展示予定のご案内
<https://www.ur-net.go.jp/fukkou-photosketch/contest2018/result/index.html>

NEWS

URの集合住宅歴史館で、小学生たちが「団地の歴史」を体感!



団地ジオラマづくりに挑戦する参加者たち。

東 京都八王子市にあるURの集合住宅歴史館は、昭和30年代の公団住宅などが移築・復元された「団地の博物館」です。ここで昨年12月26日、「団地の歴史を体感しよう!」と題して、小学生に団地の歴史に触れ親しんでいただくイベントを開催しました。

当日は18組の親子が昔の公団住宅の部屋に入ったり、古い建具

や設備に触れたりして体感。関連クイズやペーパークラフトを使った団地ジオラマづくりなども行い盛り上がりしました。参加者からは「ジオラマづくりが楽しかった」「団地の歴史を楽しみました」などの感想が寄せられました。



<https://www.ur-net.go.jp/rd/index.html>



昭和30年代の公団住宅が移築・復元されたURの集合住宅歴史館。事前予約制で見学可能です。

From Editors

福岡、札幌、山田町……本誌の担当も3年目になりましたが、北へ南へとこれほど移動した取材はなかったかもしれません。どの取材先でも、多くの方の笑顔に出会えたのが印象的でした。

本誌で紹介しているように、URは、団地の管理、都市再生、震災復興など、住まいやまちづくりに関する仕事を幅広く担っています。そして、その仕事の舞台もまた、全国各地に存在しています。

私も広報の担当として、これから各地方を飛び回りながらURの「いま」をお伝えしていきたいと思っています。

(UR都市機構・広報担当S)

次号のお知らせ

「UR PRESS」57号は2019年4月末発行予定です。

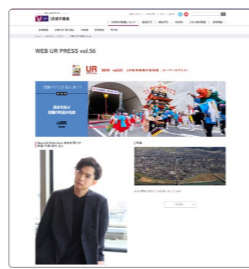
「UR PRESS」オンライン版もお楽しみください!

「UR PRESS」はパソコンやスマートフォンでもご覧いただけます。巻頭インタビューや記事のオリジナル動画なども掲載しています。ぜひご覧ください。

UR PRESS

で 検索

<https://www.ur-net.go.jp/aboutus/publication/web-urpress56/index.html>



YouTubeでもさまざまな動画がご覧いただけます

UR都市機構の公式YouTubeでは、UR賃貸住宅、都市再生、ニュータウン、震災復興など、URのさまざまな事業や情報を動画でお伝えしています。「UR PRESS」オンライン版でこれまでに紹介した動画や、テレビCMなどもアップしています。ぜひご視聴ください。

<https://www.youtube.com/user/URTOSHIKIKO/>



プレゼント付きクロスワードパズル

パズル制作 ニコリ

ヨコのカギ

- 1 ラジコンカーを自分の——に動かせるなんてすごいね!
- 2 内緒だよ、みんなには——にしておいてよ
- 3 ジンジャー。ペニ——、——焼き
- 4 バンソウコウを貼ったり、包帯を巻いたり
- 5 落語家ともいいます
- 8 人や車が通ります
- 10 人さまに強く出るなんて、とてもとても無理、という性格
- 12 江戸時代が終わり日本が一新されました
- 14 西洋将棋とも呼ばれます
- 16 勇気を出して、好きな人に——をした
- 17 今号の「あのみち このまち 歩いてみよう!」で紹介したのは——マリナイスト21周辺
- 19 食材に刺す棒
- 20 これがずらりと並ぶ屋根もあります
- 22 転ばぬ先の——

タテのカギ

- 1 葉っ葉をゆでて、しょうゆやだし汁をかけて作ります
- 4 人の——がしたので振り返ったが誰もいなかった
- 6 まだ脱穀していない米
- 7 名前を間違えて呼ばないように、——を振っておきました
- 9 おたがい第三者の助けを借りずに戦います
- 11 鍋物の——に雑炊を作った
- 13 インド伝来の健康法。ホット——、——マット
- 14 結婚式、新郎新婦が——の言葉を交わした
- 15 赤飯をこう呼ぶことも
- 17 「下」の反対
- 18 地球上の約3割がこれです
- 19 同級生たちが集まって開きます
- 21 ——オーライ 見切り——
- 23 コウゾやミツマタなどの樹皮は、——の原料になります
- 24 ——を並べてともに学んだ同級生
- 25 ベルのような形の白い花を並べてつけます

1	6	9		15	18		24
2				16		21	
		10	13			22	
3	7				19		
	8			17			25
4			14				
5		11			20	23	
		12					

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

プレゼント&応募方法

クロスワードパズルを解いて、プレゼントにご応募ください。

PRESENT 1 From 長岡
極上吉乃川 3名様

水に恵まれ、多くの蔵元が存在する新潟県長岡市。その地で地元の米と井戸水を原料に470年にわたって酒づくりを続ける蔵元「吉乃川」。伝統の技で生み出された吟醸酒(720ml)は、さわやかな香りと口当たりのよさが自慢です。



PRESENT 2 From 長岡
越乃景虎 梅酒 3名様

蔵元秘伝の製法で、銘酒「越乃景虎 龍」を使ってつくられた梅酒(720ml)。フレッシュな梅の香りと酸味が調和した逸品です。甘さ控えめでスッキリした味。



PRESENT 3 From 札幌
よいとまけ 3名様

北海道産のハスカップのジャムを挟んだロールカステラ。色鮮やかな見た目と、爽やかな甘酸っぱさが魅力の北海道の定番スイーツです。



PRESENT 4 From 札幌
じゃがポックル 3名様

北海道限定販売の人気スナック菓子。道産のじゃがいもを皮つきで使った旨みと、サクサクの食感が特徴。おやつにもビールのつまみにも合います。小袋10個入り。



●応募方法

本誌付属の応募はがきに、クロスワードパズルの答えと希望プレゼント番号、必要事項をご記入の上、郵送してください。

※応募はがきに記載のQRコードからもご応募いただけます。

●応募締め切り

2019年4月30日(当日消印有効)

当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

※お酒のご応募は20歳以上の方に限らせていただきます。

55号の解答

A ヨ B ウ C コ D ウ E ダ F イ

1	ダ	ス	ケ	ゴ	ウ
2	イ		イ	マ	ワ
	コ	ウ	コ	ク	ギ
3	マ	ン	ガ	サ	カ
	ツ		イ	カ	ツ
4	チ	ズ		シ	ヨ
	ヨ	コ	ナ	ラ	ビ
5	ウ	ミ		ナ	ナ